

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1090100106
法人名	株式会社 ケア・コスモス
事業所名	グループホーム ルルドの家
所在地	群馬県前橋市公田町1165番地
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年12月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所は、利根川と健康スポーツ施設に隣接した自然豊かな環境の中にあるヨーロッパ調の建物である。広い芝生の庭の木陰にはベンチが置かれ、入居者の散歩中の休憩場所となっている。入居者一人ひとりの希望や意見を個別支援にと、アンケートを本人や家族から取り入れ、介護計画や日々の介護の参考にしている。更に、地域との交流を大切にしていこうと理念を見直し、代表者と職員が近所挨拶まわりを行い「ルルド通信」を配布し、事業所を知っていただき非常時の協力などをお願いしている。また、地域のお祭りに参加したり、ルルドの家の納涼祭に地域ボランティアをお招きし、入居者からとても好評をいただいている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、地域との交流を大切にしたい理念に則り、運営推進会議での意見交換を活かして事業所主催の納涼祭参加への案内文を自治会の回覧板で廻しており、地域の人たちが盆踊りを披露している。また、「ルルドの家通信」を近所の家に配布するなど、地域との交流促進に取り組んでいる。また、自治会においても、町の祭りに入居者用の駐車場と座席を確保して入居者全員が祭りを見物し、敬老の日には事業所に住所を移した人に表敬訪問をしている。事業所は田園が広がる自然豊かな環境の中にあり、芝生の庭には櫻や桜・百日紅等の大木が植えられ、庭には散歩コースが作られている。散歩の後は、木陰に置かれたベンチで休憩している。散歩コース脇には夏みかんがたわわに実り、庭の一角には無花果やブラム等各種の苗木が植えられ、将来は果樹園として入居者が果物狩りを楽しめる庭園整備がされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成22年11月に職員全員で理念を考え、一部作りなおした。今後はその理念を共有化し実践していく。	職員会議で話し合い、従来の理念を見直し、「一人ひとりの幸せを考え心が癒される介護」「地域との交流を大切にし、いつまでも生きがいをもち社会と係われる支援」を掲げ、職員一丸となって理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶や公田町納涼祭に参加したり、事業所の納涼祭には自治会長を通じて地域の方に呼びかけボランティアなど参加していただくなど交流に努めている。	事業所主催の納涼祭の案内文を自治会の回覧板で廻し、地域の人たちが盆踊りを披露している。「ルルドの家通信」は、近所の家に配布している。入居者全員で町の祭りを見物したり、敬老の日には自治会が事業所に住所を移した人に表敬訪問をしたり、近所の人から渋柿を頂き入居者が干し柿を作ると、地域との交流を大切に事業所運営に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの場で地域やご家族などに認知症についてなど話しの場の機会をもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況・行事報告・研修報告・外部評価結果を報告し意見交換を行い、サービス向上(事業所と地域とのつきあい)に活かしている。	全家族に案内して奇数月に開催し、行事開催状況や外部評価結果等を報告している。意見交換では、町の祭りに入居者用の駐車場と座席を確保すること、自治会の回覧板を利用し事業所の納涼祭に地域の人々の参加を呼びかけること、夜間を想定した避難訓練に近所の人たちの協力が必要なこと等が話し合われ事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者・介護支援専門員が窓口となり、サービスの提供の在り方・法律・介護保険などで相談している。また、市担当者とは運営推進会議で情報交換をおこない協力体制を築くように努めている。	介護保険の更新書類・運営推進会議の案内文や議事録を持参した際に、「ルルドの家通信」や居間等の掲示物に顔写真を載せること、権利擁護や加算制度について相談し指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解しており、現在ルルドの家では身体拘束を行っていない。門扉は、日中開放している。玄関は職員が同行できる時は施錠していない。入浴・食事・排泄介助など同行できない時に事故防止のため施錠を行っている。	入浴時間(月火木の午前・午後)や食事時間・排泄介助の時などは、無断外出者の事故防止のため玄関の鍵を掛けている。	無断外出者の行動パターン等を把握し、原因解明と解決策等を話し合い、入居者の安全を確保しつつ玄関に鍵を掛けない工夫をされるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がおこらぬように、見過ごされないように注意を払い、防止に努めている。また、平成22年11月に高齢者虐待防止研修会に管理者が参加し、最新情報を学びその後、職員に周知を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や介護支援専門員は日常生活自立支援事業や成年後見人制度など権利擁護について学び活用している。今後は社内研修などを通じて職員が学ぶ機会をもうけたと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際は管理者が契約書を読み、専門用語などは分かり易く解釈・説明し、理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画見直し時に、家族の意見や要望を聞いたり、また、入居者に直接希望や意見聞いて参考にしている。また、玄関に意見箱を設置している。	家族の意見や要望等は面会時に把握し、申し送りノートに記載して全職員で共有している。洗濯物をホールに干しているのは「見た目が悪い」という家族の意見から、サンルーフを設置し洗濯物を干す取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との日々の会話や毎月の職員会議などで意見や提案を取り入れ、代表者に随時報告し、運営に反映するように努めている。	全職員が参加する職員会議を毎月第一水曜日18時から開催し、ルルドの家の問題点や改善点を摘出している。面会簿はノート式からカード式に変更、有給休暇や勤務時間の変更等を話し合い、改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員と話し合う機会をもうけ、様々な状況を把握しようと努めている。給与水準・労働時間・やりがいなどは個々の職員により捉え方が違うのでいちがいにいえない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は外部研修の機会を多くもうけ、新任・中堅・実践者・管理者研修など積極的に学んだ。社内研修でもオムツ交換研修会やストレス軽減の講話など様々な試みを行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年から「地域密着サービス連絡協議会」に参加。今後は同業者と職員交換研修などを予定している。また、法人内でグループホームなどの管理者でネットワーク作りや意見交換会などサービス向上させていく取り組みをはじめた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	おもに介護支援専門員を中心にアセスメントを行い、全職員で関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	おもに介護支援専門員を中心にアセスメントを行い、全職員で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	おもに介護支援専門員を中心にアセスメントを行っており、必要に応じて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃や下膳、後片付け、洗濯物たたみなどを職員と一緒にしている。レクリエーションなどを通じて、例えば一緒に外出してお寿司を食べて楽しいひとときを共有している。日々では時々一緒にテレビを観て笑ったり泣いたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の要望にそった家族との外泊や外出ができる。また家族が気軽に訪問しやすい雰囲気作りに努力している。職員は笑顔で挨拶するように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば連絡をとったり、個別外出などで馴染みの場所に出かけたりできる。	友人や自宅の近くに住んでいる御夫婦が訪問したり、職員と外出の際に自宅を訪問したりしている。また、家族と墓参りや外食、買い物や理美容院の利用等、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動・調理・ものづくりなどで協力し合い、目的が達成できるように支援している。職員は苦情を訴えた方のストレスをも考え善処している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したあとでも必要に応じて家族などから相談を受けるときがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は2~3名の入居者を担当しており、関係を深め要望や意向を聞き取っている。また、アンケートを実地し、一人ひとりの暮らしの希望や意向の把握に努め、それらを参考に個別支援に活かしている。	職員1名が入居者2~3名を担当し、入居者が希望する買い物・外食等に担当職員が同行している。職員は傾聴の気持を大切に、笑顔で接することを忘れず、常に入居者の意向を汲み取るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	おもに介護支援専門員を中心にアセスメントを行い、日々の生活の中で会話の内容からも生活環境などを傾聴し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おもに介護専門員を中心にアセスメントを行い、全職員で取り組み、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が本人や家族から要望を聞き、介護支援専門員やアンケートを参考にしながらカンファレンス(月1回)に状況などを所定の用紙にて提出し、それをもとに職員間で討議して、介護支援専門員が介護計画を作成している。家族には説明し、確認をいただいている。	サービス担当者会議で、担当職員が3ヶ月毎に入居者の①現状と問題点・注意すること②ケアアセスメント③転倒アセスメント表の3点を全職員に配布して話し合い、介護計画を作成している。また、毎月行なうモニタリングを基に、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとに実践し記録し、変化や気づきは都度、介護支援専門員に報告し次回の計画に結びつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医の受診時や緊急受診時の送迎やいきつけの美容院への送迎を行っている。家族や本人の希望により結婚式や葬式などに職員が介助しながら付き添いを行うことも場合によっては可能であり柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治体・警察・消防・自立支援事業・NPO法人・デパート・スーパー・公園などの地域資源のおかげで安心・安全で楽しい生活を送っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は協力医、月2回の訪問診療を受け体調の変化により、その他の科は家族と協力して外来受診している。	契約時に、協力医が24時間対応すること等を説明して、全入居者の家族の同意を得て協力医を受診し、月2回定期検診している。眼科等専門医の受診及び緊急時の診療は職員が対応し、診察結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、週1回の訪問時、もしくは随時相談し、入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	おもに介護支援専門員や協力医を中心に病院関係者との関係づくりを行い、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制の中に「重度化に関わる指針」があり、家族の同意をえている。重度化や終末期になったら入院が事業所で過ごすのは本人・家族・主治医・介護支援専門員・管理者・職員で話し合いを行い決める。	医療連携体制に関する指針は、契約時に家族に説明している。重度化や終末期の対応は、医師・家族等と話し合い入院が事業所で過ごすか等を話し合うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署の職員を講師に招き、救命講習会を行い学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3～4回の避難訓練を行い、毎回入居者も参加している。うち2回は消防署立ち会いで指導を受けている。夜間も想定して行っており、防災設備も整備され、管理者は防災管理者研修を修了している。近所挨拶まわりなどで近隣住民への理解を求め、災害時の協力をお願いしている。	年4回の避難訓練のうち2回は、消防署の指導を受け夜間を想定し行なっている。近隣の人たちの協力体制については、運営推進会議で自治会長のアドバイスを受け、法人代表者と管理者が戸別訪問し依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本方針に「人権と意思を尊重し、一人ひとりに合った介護を心がけます」を掲げ、日々のケアの中でプライバシーや尊厳を損ねないようにしている。具体的には居室に入る際はノックをし挨拶をしている。オムツ交換やトイレ介助時にもプライバシーに配慮して対応している。	入室の際のノックや声かけ、排泄の際の誘導、同性による入浴介助等、入居者の誇りを傷つけない対応を行っている。廊下等の掲示物や「ルルドの家通信」に掲載する個人の写真は家族の同意を得るなど、プライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時々、入居者にアンケートしたり、日々の会話で希望などをきいている。実現可能な希望、例えば外食やドライブなどは実際に企画しおこなっている。参加も当日になってからの自由参加にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、一人ひとりのペースを大切にしている。例えば、食事に関しては朝遅く起きた方は他者よりも遅く朝食を摂取している。その他にもカラオケをしたり、テレビを観たり、庭を散歩したりなど本人の希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族でお化粧のボランティアをしている方がおり、月二回来ていただき希望される方にお化粧をしてもらっている。とても好評で「昔を思い出した」と喜ばれている。日々の身だしなみも職員は気をつけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、料理の下拵え、下膳など出来る事を職員と一緒にやっている。また、好き嫌いの希望を取り入れて食材食材を考え好みに合わせて工夫している。	献立は、管理栄養士が入居者の好みや旬の野菜を取り入れ、月毎の献立表を作成している。花見や公園へのドライブには、弁当を持参している。また、時には日の光を浴びて季節の風を感じながら、芝生の庭の木陰で食事レクリエーションや焼きいもを行うなど、普段と異なる環境のもとで食欲増進と気分転換を図るなど食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士(介護支援専門員)が入居者の希望も取り入れてバランスよく作成している。食事・水分摂取量を記録し職員間で共有している。一人ひとりの状態などに応じて食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯消毒・洗浄声かけ・みがき残しなど行い、一人ひとりにあった口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意がなく夜間おむつ対応でも、昼間はリハビリパンツに替えてトイレ誘導・介助を行っている。	排泄チェック表に、入居者毎の排便・排尿の時間を記録している。日誌には、自立している入居者が、失禁の際に汚れた下着をタンスに入れる、リハビリパンツをトイレに流すなどが記録されている。	排泄チェック表を活用し、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれの状況にあわせたトイレでの排泄にむけた支援を期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時ヨーグルト提供や、野菜を多く摂取できるように食材を工夫している。水分摂取管理・飲水の補助を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月火木金となっており、機械浴・リフト浴に加え、今年からユニットバスも使用できるようになった。一人ひとりにあつた入浴を行って週2回は入浴できるように支援している。拒否される方には時間や曜日をを変えて支援している。	入浴日は、A棟が月・木、B棟が火・金の週2日としている。身体状況により、機械浴、リフト浴、ユニットバスを利用している。夏場や失禁時にはシャワー浴を行ない、必要な人には足湯も行っている。入浴を拒否する人には、時間や曜日を交えるなどの入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度・寝具・着衣・照明・音・季節に応じて湯たんぽで保温調節し安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に変更や新しく処方された時は説明書などでわかりやすくなっている。特に新規の薬は開始した際、変化を見逃さないように観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の心身の状態に応じて、下膳・テーブル拭き・洗濯物たたみ・モップ掛けなどを役割として行ってもらっている。また、個別で季節ごとの折り紙を作り、自室前に貼っている方もいる。時々外食や散歩など楽しみと気晴らしの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の庭が広く庭での散歩は日常的に行っており、近隣の散歩も行っている。外食や買い物などの個別外出は希望により企画し行っている。	庭の散歩コースや近くの大利根緑地公園を、日常的に散歩している。また、年間行事計画に基づき、外食ツアーや買い物ツアー、弁当持参のバラ園見物や県庁訪問等計画的な外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人現金は事業所で管理しているが、希望があれば家族の了承のもとで所持できる。また、買い物レクなどの際には希望や入居者の能力に応じて支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも(常識範囲内で)電話をしたり、手紙を書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物があり、ソファが置いてあり入居者の一休みの場となっている。ホールは広く、ガラス窓から光が入り明るく庭の芝生や木の緑・季節によってはプランターの花々がみえる。施設内の所要所に手すりが設置してあり安全で居心地良く過ごせるように工夫している。	居間兼食堂には、入居者が自由な時間を過ごせるよう随所にソファが置かれ、クリスマスツリーが飾られ季節感がある。広い芝生の庭には、所々に樺や桜・柿等の大木があり、散歩コースが作られている。コース脇には夏みかんがたわわに実り、将来果樹園として果物狩りが出来るよう無花果やプラム等の苗木が植えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内の共有空間に四カ所ソファが設置してある。またA棟には談話コーナーがある。一人や気の合った仲間や家族と思い思いに過ごされるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた椅子やタンスなどを持ち込み、手作りの壁掛けや写真などが飾られ、居心地良く過ごせるように工夫している。	居室には、テレビ・タンス等の家具や位牌・本が持ちこまれ、好みの衣類がハンガーに掛けられている。壁には仏画や塗り絵が飾られ、卓上には配偶者や家族の写真が置かれている。昼休みに持参した本を読んだり、テレビを見るなど一人ひとりの生活スタイルに合わせ居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩・シルバーカー・車椅子など一人ひとりの状況に合うように廊下に手すりを設置したり、シルバーカーや車椅子が入りやすいようにトイレが広かったりとなるべく自立した生活が送れるように支援している。		